

〔IV〕

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、人のもとに宮仕してある生侍ありけり。する事のなきままに、清水へ人まねして、千日詣を二度したりけり。その後いくばくもなくして、主のもとにありける同じやうなる侍と、双六を打ちけるが、多く負けて、渡すべき物なかりけるに、いたく責めければ、思ひ侘びて、我、持ちたる物なし。只今貯へたる物とは、清水に二千度参りたる事のみなんある。それを渡さんといいひければ、傍にて聞く人は、謀るなりと、をこに思ひて笑ひけるを、この勝ちたる侍、「いとよき事なり。渡さば得ん」といひて、「いな、かくては請け取らじ。三日して、この由を申して、おのれ渡す由の文書きて、渡さばこそ請け取ら³」といひければ、「よき事なり」と契りて、その日より精進して、三日といひける日、「さは、いざ清水へ」といひければ、この負侍、この痴者にあひたると、をかしく思ひて、悦びてつれて参りにけり。いふままに文書きて、御前にて師の僧呼びて、事の由申させて、「二千度参りつる事、それがしに双六に打ち入れつ」と書きて取らせければ、請け取りつつ悦びて、伏し拝みまかり出でにけり。

その後、いく程なくして、この負侍、思ひかけぬ事にて捕へられて、人屋に居にけり。取りたる侍は、思ひかけぬ便ある妻まうけて、いとよく徳つきて、司などなりて、頼もしくてぞありける。

「目に見えぬものなれど、誠の心を致して請け取りければ、仏、あはれと思しめしたりけるなめり」とぞ、人はいひける。

(『宇治拾遺物語』より)

〔註〕

- 生侍……身分の低く年も若い侍。
- 清水……京都東山にある清水寺。
- 双六……さいころを振って、出た目だけ石を進めて勝負を争う遊戯。
- をこ……ばかなこと。
- 精進……身を清め、一心に仏前にお勤めすること。
- 御前……神仏または貴人の前。
- 人屋……獄、牢屋。
- 徳……富、財産。
- 司……官職。

問一 傍線部「それを渡さん」とあるが、「それ」とは何を指すか。その内容を表す箇所を本文中から抜き出さない。解答番号は 202

問二 同じく傍線部「それを渡さん」は、ある登場人物の発言の末尾にあたるが、その発言はどこから始まるか。その冒頭部分を五字で抜き出さない(なお、句読点等の記号も一字とする)。解答番号は 109

問三 傍線部2「謀るなり」とあるが、なぜそのように思ったのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その

記号をマークしなさい。解答番号は

9

- A 価値の不確かなものを価値があるかのように請け合って、だますのだなと思ったから。
- B 蓄えたものが清水寺にあるなどとうそを言って、だますのだなと思ったから。
- C 自分が参拝することで支払いの代償になると言って、だますのだなと思ったから。
- D 信心深い人間を装って、見逃してもらおうとしているのだなと思ったから。

問四 傍線部3「かくては請け取らじ」とあるが、どのようにすればよいと言っているのか。その内容として最も適切なものを次

の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

10

- A 三日たって、このことを仏に申し上げてあなたが許しを得たならば、あなたからの申し出を受け取りましょう。
- B 三日たって、このことをまだ私に約束することが出来るならば、あなたからの申し出をその時に受け取りましょう。
- C 三日たって、この理由をあなたが話した通りに文にして書き残したならば、あなたからの申し出を受け取りましょう。
- D 三日たって、このことを仏に申し上げて証文に書くならば、あなたからの申し出を受け取りましょう。

問五 空欄部分には意志を表す助動詞が入る。その助動詞を適切な活用形にして記入しなさい。解答番号は

110

問六 傍線部4「いひければ」および傍線部5「書いて取らせければ」とあるが、それぞれの動作の主体は誰か。次の中から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。傍線部4の解答番号は 11、傍線部5の解答番号は 12

- A 生侍
- B 主
- C 勝ちたる侍
- D 師の僧

問七 傍線部6「あはれと思しめしたりけるなめり」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 13

- A すばらしいことだと大変お喜びになったのであろう。
- B 感心なことだとしみじみと思われたのであろう。
- C かわいそうなことだと深くお嘆きになったのであろう。
- D 風情があることだとお思いになったのであろう。

問八 この物語の主旨の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 14

- A 金銭に対し貪欲な態度や行動を取った者は、決して幸福にはなれないということ。
- B 賭け事による成功ではなく、日々の幸福を大切にすることが肝要だということ。
- C 仏への信仰の度合いと態度によって、その人への世間的な評価が変わるということ。
- D 財物に執着せず誠実な信仰心を持った者は、よい報いを受けるということ。

問九 文学史上、「宇治拾遺物語」と同じ時代の作品を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

A 古事記伝

B 徒然草

C 伊勢物語

D 古今和歌集

15